

ブラジル サンパウロ州の柑橘類生産者は新たな熱波を懸念

サンパウロ大学農学部経済研究センター(Cepea) 2023年11月17日

セペア(Cepea)、2023年11月17日 - サンパウロ州における新たな熱波が柑橘類の生産者達を心配させている。気温は前回9月の熱波よりも高く、より長く続いている。このため、多くの生産者がこの天候は2024/25年度の生産量に影響を与える可能性があると言っているが、起こりうる影響を予測するのはまだ早い。

11月中旬までは、高温は幼果を付けた地域に影響を与えていた。9月に観測された熱波では、その気象条件によって落果を引き起こし、幼果を付けた(8月に開花した)地域が最も影響を受けたことが注目される。

遅咲きの地域(開花から30日以内)も暑さによる被害を受ける可能性がある - これらの花は通常より早く咲き、果実の形成段階が進んでいる。さらに、柑橘類の栽培者らは、より大きな果実にも影響を与える可能性があることを指摘している。これは、カンキツグリーンング病の発生率が高く、葉が少なかったり、栄養状態が悪かったりする果樹で特に見られる。

一方、灌漑されている地域では、花がより進んだ段階にあるため、被害が軽減される傾向がある。ただし、これらの地域はサンパウロ州の北部に位置し、通常気温が高い。

2023/24年度シーズンのオレンジについては、セペアが調査した生産者らは品質への影響を報告している。多くの果実はしおれて日焼けしており、消費者は通常、このような状態の果実を購入したがるらない - 多くの場合、未熟果の落果を避けるために収穫を早める必要がある。

タヒチライム - 熱波はタヒチライムにも影響を与えている。主要産地で雨があまり頻繁に降らなかったため、供給量も大きく増えず、またほとんどの果実が小玉である。

暑さが品質にさらに影響を与えることを避けるため、サイズが小さいにもかかわらず、生産者らは価格が高いうちに果実を収穫している。

マレーシア 2025年までにパイナップル250万本増加を目指す

FreshPlaza 2023年11月17日

サバ州ゴム産業委員会(LIGS)のダトゥク・エドワード・リング会長は、年間総額560万リンギットを配分した追加経済活動(AET)事業の参加者598人に、144万本のMD2パイナップルの苗を配布すると発表した。LIGSは、サバ州のMD2パイナップル産業の発展に力を注いでおり、2025年までに苗250万本の植栽という目標を掲げている。このコミットメントは、収益を得られる可能性があるとして特定された様々なビジネスを網羅するAET事業を通じて実現されつつある。(2023年11月現在 1マレーシアリンギット=約32円)

事業の進捗を要約すると、LIGSは2021年にMD2パイナップルに関する新しいベンチャー事業を導入し、212名が参加した。2022年には参加者が305名に増加した。2021年に開始されたこのAET事業では、今年の7月12日までに65トン収穫し、農場出荷額は15万リンギットで、出荷量の増加を示している。

エドワード氏は、LIGSの指導の下でMD2パイナップルの事業を実施した起業家の成功を認め、特にケニンガウ地区とテノム地区でシーズン当たり3千~6千リンギットの収入を達成した3人の参加者を挙げた。MD2パイナップル栽培の将来の増加と普及を促進することを目的として、これらの起業家をさらに支援するため、機材の形で援助が提供された。

出典: www.dailyexpress.com.my